

## 謹賀新年

Vol.127

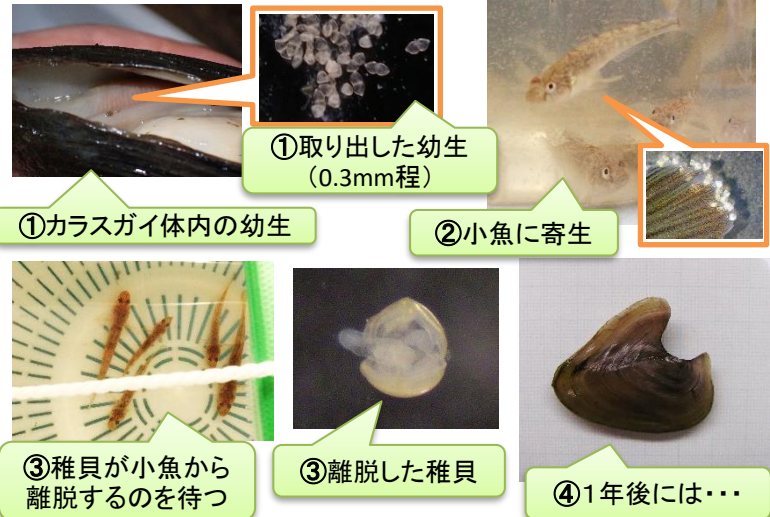
令和2年度1月号

新春のお喜びを申し上げます。  
本年も（公財）宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団を  
よろしくお願いいたします。

### カラスガイ *Cristaria plicata* (Leach) の増殖試験を行っています

近年、伊豆沼ではカラスガイが減少しています。  
カラスガイは、タナゴ類が産卵母貝として利用する  
ため、当財団ではカラスガイの人工増殖を行っ  
ています。カラスガイの人工増殖は、

- ①母貝となるカラスガイから幼生(グロキディウム)を取り出す。
- ②小魚(ジュズカケハゼ)に幼生を寄生させる。
- ③2週間程寄生した幼生が変態して稚貝となり小魚から離れるのを待つ。
- ④底生生活に移行した稚貝を水槽で育てる。栄養分(プランクトン)を含んだ池の水を定期的に汲んできて水槽に注ぎます。3ヶ月程で殻長4mmくらいの稚貝に成長。



### 伊豆沼・内沼自然体験講座開催

第4回伊豆沼・内沼自然体験講座「ガンの飛び立ち観察会&沼歩き探鳥会」が12月13日に行われ、県内外から21名が参加しました。当日は非常に寒い中でのマガンの飛び立ち観察となりましたが、日の出とともに一斉に飛び立つマガンの群れに歓声が上がりました。

温かい朝食後は、内沼から伊豆沼の岸边を歩く探鳥会を行いました。内沼でオオハクチョウ、オオヒシクイ、オナガガモ、伊豆沼でマガモ、コガモ、ミコアイサ、オオバンなど様々な水鳥に出会うことができ、参加者からは「とても満足した」、「また参加したい」等の意見が多数寄せられました。



# 志津川湾からGPS追跡されたコクガンが長い旅を経て日本に戻ってきました

昨冬に志津川湾で捕獲及びGPSを装着されたコクガンが、春の渡りでオホーツク海を縦断後ロシア内陸部を経由して、北極圏のノヴォシビルスク諸島に到達しました。南三陸沿岸から直線距離で4200kmです。秋の渡りでは同じ経路ではなく、東よりの経路を南下し、カムチャツカ半島沿岸部を経由し、12月10日現在、北海道襟裳岬まで戻ってきました。東アジアのコクガンの渡りが明らかになったのは世界でも初めてのことです。



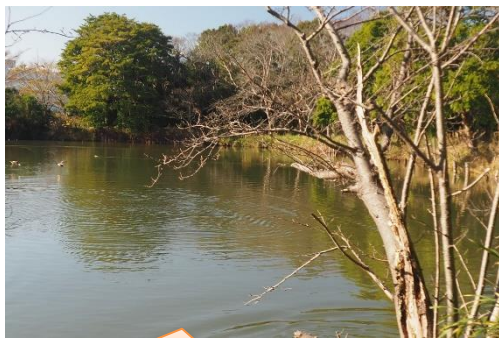
2020年3月6日 志津川湾のコクガン



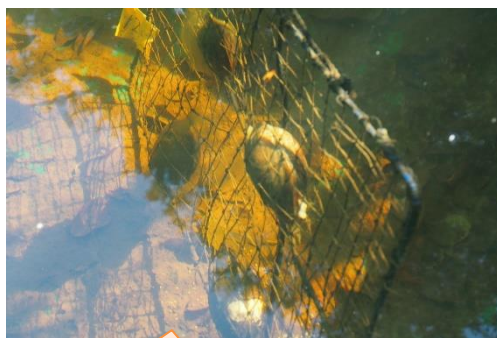
## ゼニタナゴ復活を目指す関東のプロジェクトを視察しました

伊豆沼で復元しつつあるゼニタナゴ。関東地方では、全ての都県で野生種が絶滅したため、博物館で飼育していた関東の個体を増やして、復活させるための取組みが行われています。場所は手賀沼近傍。市民グループと大手企業が協力して取り組んでいます。

ゼニタナゴも増え始め、少しずつ成果が出てきているようで、今後が楽しみです。



復元プロジェクトが行われている池。企業の敷地内にあるため、通常は見学することができません。



ゼニタナゴが産卵した二枚貝。



ガシャモクという貴重な水草も保全しています。

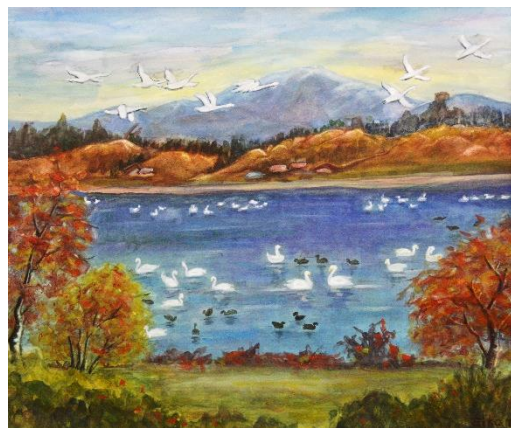
## 「第26回伊豆沼・内沼絵画展」を開催しています

12月22日よりサンクチュアリセンター1階ホールにて「第26回伊豆沼・内沼絵画展」を開催しています。伊豆沼・内沼の良さを知っていただき、自然保護の意識啓発を図ることを目的として始まった絵画展も今年で26回目を迎えました。

絵画展では、伊豆沼・内沼を巧みに表現した作品が展覧されています。美しい作品の数々をどうぞお楽しみください。

【期間】 令和2年12月22日（火）～令和3年1月23日（土）  
午前9時～午後4時30分

【会場】 伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター1階ホール



「晩秋」 晝八栄子（栗原市築館）

